

公益財団法人岡本太郎記念現代芸術振興財団
2016 年度事業計画書

「岡本太郎の先駆的芸術創造の成果を広く社会に伝承する。」ことが当財団に課せられたミッションである。これを達成するため、今年度も以下の事業を着実に実施する。

1. 現代芸術に取り組む作家、研究者等に対する助成
2. 現代芸術に関する優れた活動に対する顕彰

(1) 第 20 回岡本太郎現代芸術賞

時代に先駆けて、絶えず新たな挑戦を続け時代をリードしてきた岡本太郎。『岡本太郎現代芸術賞』（通称 TARO 賞）は、岡本太郎の精神を継承し、自由な視点と発想で現代芸術に鋭いメッセージを突きつける作家を顕彰するもので、当財団の主要な事業として取組み、着実に成果を収めてきた。第 20 回となる今年度も、本事業を継続して実施し「時代を創造するものは誰か！」を問いかけ、創造活動に邁進する人たちの活力ある挑戦の場を提供する。

[主催] 公益財団法人岡本太郎記念現代芸術振興財団

川崎市岡本太郎美術館

[スケジュール] (予定)

- ・応募期間 2016 年 7 月～9 月
- ・第一次審査 2016 年 11 月
- ・第二次審査 2017 年 1 月
- ・入賞者発表・授賞式 2017 年 2 月

[賞及び賞金]

- ・岡本太郎賞 200 万円 1 名
- ・岡本敏子賞 100 万円 1 名
- ・特別賞 総額 50 万円 若干名

[審査員]

審査員の構成は次の通りとし委嘱する。(敬称略)

榎木野衣 美術批評家/多摩美術大学教授

平野暁臣 空間メディアプロデューサー/岡本太郎記念館館長
北條秀衛 川崎市岡本太郎美術館館長
山下裕二 美術史家/明治学院大学教授
和多利浩一 ワタリウム美術館キュレーター

(2) 第 20 回岡本太郎現代芸術賞の入選・入賞作品展

今年度も引き続き、第 20 回岡本太郎現代芸術賞の入選・入賞作品展を川崎市岡本太郎美術館で開催する。

(3) 「太郎賞」「敏子賞」受賞者の岡本太郎記念館での特別展示

「太郎賞」「敏子賞」受賞者には岡本太郎記念館での作品展示の機会を提供し、現代芸術の普及に努める。開催中に、受賞作家自身によるギャラリートークやワークショップを実施する。

3. 岡本太郎記念館の運営

記念館の運営にあたっては、来館者の安全、安心そして心温まる接客をモットーに、日々のチェック、改善をスピーディーに行い快適な空間の提供に努める。

(1) 建物・収蔵品等の維持管理

① **建物** 火災は記念館にとっては致命傷となる。記念館周囲の可燃物の除去、館内の整理・整頓、退館時の点検などの防火対策を確実に実施する。また、旧館の雨漏りや給排水管の劣化による漏水などに適切な措置を講じる。

② **展示物・収蔵品** 特に屋外展示物の洗浄、清掃、メンテナンスを定期的に実施する。

(2) 開館時間・休館日・入館料

開館時間 10:00～18:00

休館日 火曜日(祝日は開館、翌日も開館)

年末年始(12/28～1/4)及び展示替え、保守点検日

入館料 一般 620 円(520 円)/小学生 310 円(210 円)

※ ()内は 15 名以上の団体割引料金

TARO PASSPORT 3,000 円(購入時から 1 年間)

(パスポート購入者は入館無料、ショップ利用 5%割引、イベント情報の発信、優先受付などの特典を付与)

(3) 企画展の実施

企画展の実施は記念館運営における主要事業のひとつであり、話題性、集客性、収益性が期待できるなど運営の活性化をもたらす事業である。

本年度第 1 回は「生きる尊厳 - 岡本太郎の縄文-」とし、「縄文の美」を発見し、太郎の人生観、芸術観の核となった縄文をとりあげる。実施にあたっては国学院大学博物館の協力を得て行う。なお、会期中には特別講座や第 18 回岡本太郎現代芸術賞で太郎賞を受賞した Yotta、そして敏子賞を受賞した久松知子氏による特別展を実施する。

第 2 回は「岡本太郎の沖縄」(仮題)と題して、太郎が撮影した写真やドキュメンタリー映像を駆使した企画展を行う予定である。

企画展は幅広い世代を対象に年 3 回実施する。

(4) ギャラリートーク

来館者サービスの一環として、当館職員による記念館の展示作品の解説やその魅力を語るギャラリートークを実施する。(毎月 1 回)また、近隣の学校や修学旅行でのグループ行動の予約に対しては、要望があれば職員によるガイドンスを行う。

(5) 広報活動

記念館の新規利用者層の開拓やリピーターの確保には、記念館からの情報発信が不可欠である。とりわけ Twitter や Blog、Facebook などソーシャルメディアの普及による口コミ効果は極めて効果的である。このため当館 HP や Twitter、PLAY TARO による情報発信をはじめ、企画展フライヤーの配布、メディアへの情報提供、TV、ラジオ番組への出演や資料提供などを積極的に実施していく。また、記念館の無料入館と宿泊がパックとなった商品開発を近隣ホテルと提携するなど記念館の来館者の拡大に取り組む。

4. 現代芸術に関する調査研究・資料収集

企画展の実施、普及活動、資料収集・提供などに資するため岡本太郎に

関する調査研究活動は不可欠である。今後も継続して調査研究活動を進めその成果を適宜公表していく。

また、各方面からの岡本太郎のオリジナル作品の寄贈受け入れや、埋もれていた貴重な作品を購入するなど可能な範囲で収集・保存に務めていく。これらについても適宜公開していく。

5. 美術館等関係機関との連携・協力活動

『明日の神話』を管理する NPO 法人明日の神話保全継承機構との連携、支援活動を継続して実施する。また、港区ミュージアムネットワーク(加盟館 32 館)との連携によるイベントへの協力、人的交流、情報提供などに積極的に参加する。さらに、全国の美術館、博物館などが実施する岡本太郎関連の特別展や企画展への所蔵作品の貸出や資料提供にも協力していく。

6. ミュージアムショップ

ショップ事業は数少ない当財団の収益事業の支柱である。その充実は記念館の活性化につながるため、魅力的なグッズの開発や提案に取り組む。

7. その他の事業

(1) 映画制作への参画

下記 2 本のドキュメンタリー映画の制作に参画し、積極的に映画製作の一翼を担う。

① 「岡本太郎の沖縄(仮)」

岡本太郎の眼が捉えた太郎にしか見えない沖縄。太郎が捉えた沖縄と今を見つめ本質的、根源的な沖縄をドキュメンタリーで描く。

製作委員会のメンバーである(株)沖縄テレビ開発の協力を得て、同社が所蔵している沖縄の貴重な資料映像を借用し、本年度予定している企画展のコンテンツとして、これまでにない充実した企画展を実施する。

作品は、7 月以降に東京、大阪などで公開される予定である。

② 「太陽の塔(仮)」

「太陽の塔」を国内外に情報発信することで、芸術家岡本太郎と「太

陽の塔」の知名度の向上とファン層の拡大を図り、太陽の塔の制作への思い、理念を後世に継承する。映画制作の過程で活用した資料を反映した企画展などを今後検討していく。2年後の公開を予定している。

(2) 「太陽の塔」関連事業

本年7月に予定されている改修工事の入札結果をみて、「太陽の塔」の関連事業を企画することとする。

(3) 映像資料等のアーカイブ化

記念館が所蔵する岡本太郎・敏子の貴重な映像資料を保存し利用に供するため、前年度から古いビデオテープのHD化を進めている。今年度は新たに経年劣化しつつある音声カセットテープについてもカビ除去などのクリーニングを行いデジタル化を図っていく。

以上